

甲南学園
ダイバーシティ&インクルージョン宣言
制定記念シンポジウム

彩りゆたかな
キャンパスをめざして

シン、でな
考え方、
良い未来、

- 
1. 甲南学園は、多様な背景を
持つ、彩り豊かなキャンパス
を築く。年齢、宗教、信条、社会的属性
すべての構成員のアイデンティティを
尊重します。あらゆる差別やハ
ラスを排除し、キャンパスづくりに力を注ぎ
ます。甲南学園は、学生・生徒の
個性を尊重し、自己実現を
目指す教育を提供し、
社会に貢献する人材を育成し
ます。
- 

2024年

3月1日(金) 午後2時~4時

甲南大学岡本キャンパス 1-42教室(1号館4階)

甲南学園ダイバーシティ&インクルージョン宣言

甲 南学園の創立者である平生飢三郎は「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の特性を啓発する人物教育の率先」を主唱しました。また、異なる背景を持つ人々が互いに尊重しあい支えあうことで共に成長し、社会全体の進歩に寄与するという「共働互助」の精神の重要性を説きました。学園の創立から一世紀を経た今も、私たちは、一人ひとりが持つ独自性と潜在能力を尊重しあい、それぞれの天賦の才を発揮することができる環境を維持し、発展させています。

ダイバーシティ(多様性)の尊重とインクルージョン(包摂)の推進は、私たちが大切にしてきた、これらの理念と軌を一にするものです。すべての学生・生徒、教職員一人ひとりの人権と多様な価値観を尊重し、個人の成長を支え、社会全体の発展に寄与するような人物を育て輩出することは、私たちが追求する「人物教育」の基盤です。

様々な背景や視点を持つ人々が各自の天賦の才を発揮し、その力が集合することで、より豊かな学び・研究の環境が形成され、働きやすい職場環境と新たなアイデアや解決策が醸成されます。お互いの違いを理解し尊重しあうことは、共生社会の実現に寄与する人物を育成することにつながります。

ダイバーシティとインクルージョンのさらなる推進は、学園に集うすべての人の成長と喜びをもたらすだけでなく、これからの社会全体の発展にも欠かせない取り組みです。

私たちはこのような考え方のもと、これからも積極的にダイバーシティとインクルージョンを推進し、より良い未来への道を切り開くことを決意し、次のとおり宣言します。

- 1 甲南学園は、多様な背景を持つ学生・生徒、教職員が集い、互いの違いを尊重しあう、彩り豊かなキャンパスの発展に努めます。性別、国籍、人種、民族、年齢、宗教、信条、社会的属性、性的指向・性自認、障がいの有無等に関わらず、すべての構成員のアイデンティティを認め、能力を最大限に発揮できるよう支援します。あらゆる差別やハラスメントのない、多様な個性が表現され育まれるキャンパスづくりに力を注ぎます。
- 2 甲南学園は、学生・生徒一人ひとりの人権を尊重しつつ、その能力と人格の陶冶を目指す教育を提供し、社会的課題に積極的に取り組み、社会全体の発展に寄与する人材を育成します。
- 3 甲南学園は、支援を求める声に対して適切に配慮し、そのニーズに応える環境を整えます。障がいだけでなく、自らでは解決が困難な状況にある学生・生徒や教職員に対し、合理的配慮のもとに、支援の提供や、必要な施設・設備の整備を積極的行います。
- 4 甲南学園は、すべての構成員に対してダイバーシティとインクルージョンに関する定期的な研修と啓発活動を行うことを通じて、学内の意識向上を図ります。様々な組織・研究分野間の協力を促進し、構成員の多様性を価値ある資源に昇華させ、社会に貢献します。
- 5 甲南学園は、同窓生や地域社会をはじめとする学内外のコミュニティと連携し、公正でインクルーシブな社会の実現に向けた取り組みを推進します。

2024年3月1日

Konan Gakuen Diversity and Inclusion Declaration

Konan Gakuen's founder, Hirao Hachisaburo, advocated for "the cultivation of character, promotion of health, respect for individuality, and the advancement of character education to enhance the innate abilities of each individual." He also emphasized the importance of the spirit of "cooperation and mutual assistance," in which people of different backgrounds respect and support each other to grow together and contribute to the advancement of society. Since our founding a century ago, we continuously strive to maintain and develop an environment where each individual's uniqueness and potential are respected, and their talent are nurtured to the fullest.

Respect for diversity and the promotion of inclusion align with the founding principles that we have cherished with deep commitment. Konan Gakuen is committed to the cornerstones of "character education," respecting the fundamental rights and diverse values of all students, faculty, and staff, and nurturing individual growth to educate individuals who will contribute to the development of society.

We believe that when people with diverse backgrounds and perspectives demonstrate their innate talents and collective strengths, a thriving and inclusive environment for education and research environment is formed, fostering a productive work environment, new ideas, and solutions. Understanding and respecting each other's differences will lead to the nurturing of individuals who will contribute to the realization of a symbiotic society.

Advancing diversity and inclusion will not only bring growth and fulfillment to all those who gather at Konan Gakuen, but it is also an essential initiative for society's future prosperity.

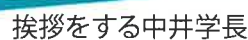
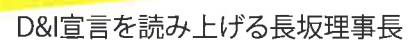
Based on this philosophy, we are committed to continue actively promoting diversity and inclusion to pave the way for a better future and hereby declare as follows:

- 1 Konan Gakuen will strive to develop a vibrant campus environment where students, faculty and staff from diverse backgrounds come together and respect each other's differences. We respect the diversity of identities of all members of our community regardless of gender, nationality, race, ethnicity, age, religion, creed, social class, sexual orientation, gender identity, disability, etc., and support all members in achieving their full potential. Konan Gakuen will strive to create an environment in which diverse individuals can express and nurture their individuality, free from all forms of discrimination and harassment.
- 2 Konan Gakuen will respect the human rights of each student while providing an education that aims to cultivate their abilities and character, foster individuals who will actively address social issues and contribute to the development of society.
- 3 Konan Gakuen will attend to those who seek support and create an environment that meets their needs. Providing reasonable accommodation, Konan Gakuen will provide support and necessary facilities and equipment to students, faculty, and staff with disabilities and those in situations that are difficult to resolve on their own.
- 4 Konan Gakuen will raise awareness of diversity and inclusion within its institutions through regular training and awareness-raising activities for all members. Konan Gakuen will contribute to society by promoting cooperation among various organizations and research fields and empowering our constituents' diversity to become a valuable resource.
- 5 Konan Gakuen will collaborate with its alumni, the local community, and other communities on and off campus to promote efforts to realize an equitable and inclusive society.

1/March/2024

0 はじめに

この宣言の推進に際しては学園構成員のみならず、学園に関わって下さる方々のお力が是非とも必要です。皆さま、どうぞよろしくお願い申し上げます。



甲南学園 ダイバーシティ&インクルージョン宣言 制定記念シンポジウム

彩りゆたかな キャンパスをめざして

甲南学園は2024年3月に、
甲南学園で学び研究し、働く
すべての人の多様性（ダイバーシ
ティ）の尊重と包摂（インクルージ
ン）を推進し、一人ひとりの人権と価値
をいっそう尊重することを目指して、KOBAN
ダイバーシティ&インクルージョン宣言を公開し
ました。甲南学園の未来である多様性と包摂は、
「人々の異なる価値の尊重を基とし、個性を尊重し、誇
りのある未来を創り出す」という宣言を掲げました。これを建
学の理念として大切に果たすために、ダイバーシティ&イン
クルージョンの理念は、私たちに迫ります『人物観』の前提であり、
建学の精神『鉄血道義』の前提でもあるものです。個性を自由に伸ば
す限り豊かなキャンパスを実現して、これからの甲南大学のキャンパスを豊かに
するために、ご参加をお待ちします。

2024年
3月1日(金)
午後2時～4時

〒650-0191
兵庫県神戸市東灘区美しき丘3丁目
甲南大学岡本キャンパス
1-42 教室（1号館内）

主催 甲南大学

後援：神戸市

お申込みはこちらから⇒

[illegible]

ダイバーシティ

直訳で「多様性」



多様な個性を持つ人々が集まっている状態

インクルージョン

直訳で「包括」



互いに尊重し、能力を発揮している状態

(出典) TOPPAN BIZ「D&I(ダイバシティ&インクルージョン)とは?企業経営における必要性や推進方法を解説」
https://solution.toppan.co.jp/creative/contents/d&i_column01.html

さらに島岡教授は、今後の課題として「意識改革と制度改革(予算措置を含む)」を挙げられ、特に意識改革において、「無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)は、だれもが潜在的に持っているバイアスで、持っていて当たり前ですが、それに気づき、対処することが大切です」と話されました。



彩りゆたかな キャンパスをめざして

1 開会の挨拶 甲南大学副学長 北川 恵

今年度、この日を迎えるまでの歩みをご紹介します。本学は「人物教育の率先」を理念とし、顔の見える関係の中、学生一人一人に寄り添った教育を大切にしています。一方で、多様化が進む時代においては、多様性を尊重する組織全体としての方向性をより明確な形にし、取り組みを進める必要があると考えてまいりました。大学執行部においてこの考えを共有し、大学のビジョン実現を目指すKONANプレミアプロジェクトの一つとして、D&Iプロジェクトを今年度立ち上げました。まずは教職員一同で学ぶことから始めようと、2回の学内研修を行いました。1回目は、本学文学部特任教授の池上 知子先生が、前職の大阪市立大学(現在は大阪公立大学)で副学長として男女共同参画を担当しておられたことから、そのご経験について、また、ご専門の社会心理学の視点から差別や偏見にかかわる心の仕組みや心のバリアを克服する考え方についてお話くださいました。2回目は大阪大学の島岡 まな副学長(ダイバーシティ&インクルージョンセンター所長)より、大阪大学での取り組みについて、さらにより本質的に、なぜD&Iが必要なのかについてご教示頂きました。大阪大学の皆さまには、われわれチームの訪問も受け入れていただきました。お礼申し上げます。大阪大学で生理用品のディスペンサーを開発し、学内で無償配布されている様子を拝見した折に、本学学生からも設置の要望がありましたので、実現に向けて動き出すことになりました。

本日は学生による他の取り組みも紹介させていただきますが、大学に留まらず、中学高校も含む甲南学園としてダイバーシティ&インクルージョンに取り組む動きへとつなげていただき、クロス・ファンクショナル・チームを結成し、宣言と推進体制を検討してまいりました。この後、長坂理事長に宣言をご披露いただきます。

本日は記念すべきシンポジウムですが、これは出発点でもあります。今後、構成員でダイバーシティ&インクルージョンを推進する際に、宣言が大きな方針となりますし、このシンポジウムで登壇者の皆様と共に学び考えることが大きな示唆になっていくと思います。本日多くの方々にご出席賜り、本当に有難く、お礼申し上げます。



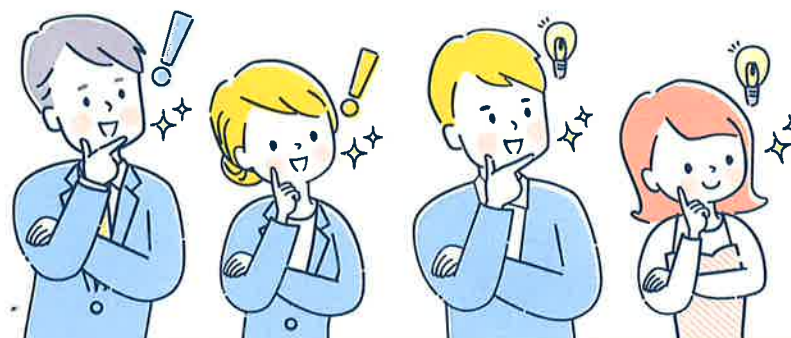
開会の挨拶をする 北川 副学長

2

甲南学園ダイバーシティ&インクルージョン宣言の制定について

甲南学園理事長 長坂 悦敬

理事長の長坂 悦敬より、甲南学園ダイバーシティ&インクルージョン宣言が紹介されるとともに、皆様のご支援へのお願いがありました。



ポスター・コンペティション

甲南学園D&I宣言を制定するにあたり、花を添えて下さるA3版ポスターを学生の皆様から公募し、最優秀作品と優秀作品を選定、披露されました。

【最優秀作品】

マネジメント創造学部4年次:宮脇 香子さん

受賞の言葉

「このたびはD&I宣言の制定おめでとうございます。ポスターコンペという機会や最優秀作品の認定を頂き誠にありがとうございます。ダイバーシティについては留学経験を通し大変興味がありましたので、この度はポスターに携わることができ大変光栄です。今後の活動が学生、生徒、大学、教職員間で対話を生む有意義な活動となることを願っております。」



甲南学園ダイバーシティ&インクルージョン宣言
甲南学園は2023年3月に「甲南学園ダイバーシティ&インクルージョン宣言」を制定し、その中で「ダイバーシティ」の概念と目標「ダイバーシティ宣言」を掲げ、一人ひとりの個性と能力を最大限に引き出し、誰もが活躍できる環境づくりを推進する。宣言の制定と並行して、学生によるポスターコンペティションを開催し、最優秀作品と優秀作品を選定、披露されました。

【優秀作品】

マネジメント創造学部2年次:北 勇紀さん

受賞の言葉

「このたびは、私の作品を選んでいただきありがとうございます。創立者・平生さんのお考え、お言葉にもあるように、甲南のキャンパスは個性を伸ばす場として作られたように思います。難しい事もあるとは思いますが、皆さんで力を合わせて、より良い未来を作っていきたいと思います。」



―1. 学生が求めるキャンパスとは？

- ・D & I に関する学生対象アンケート結果分析
- ・ムスリムフレンドリーな大学を目指す

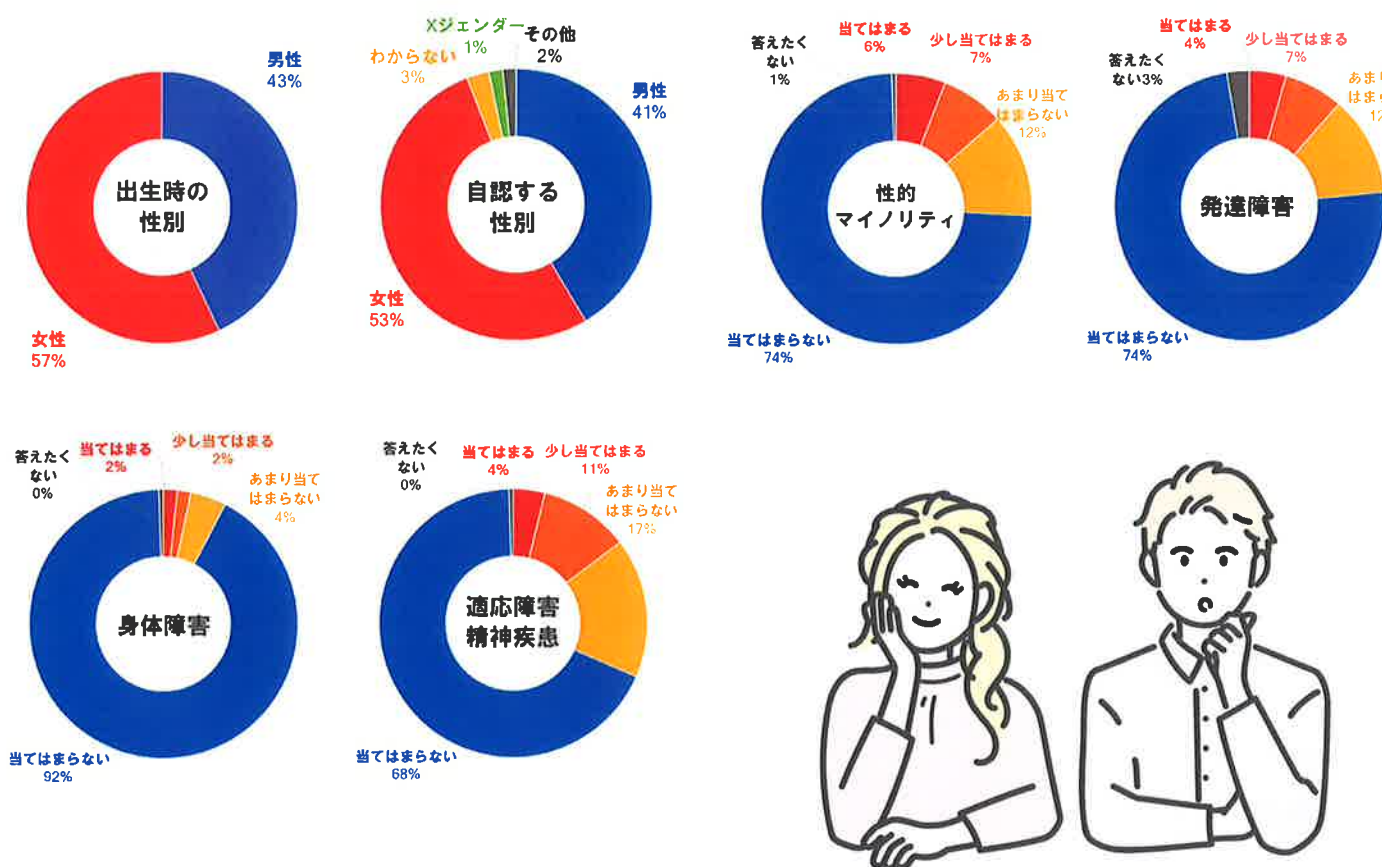
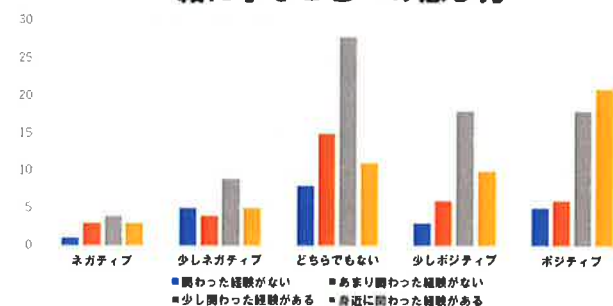
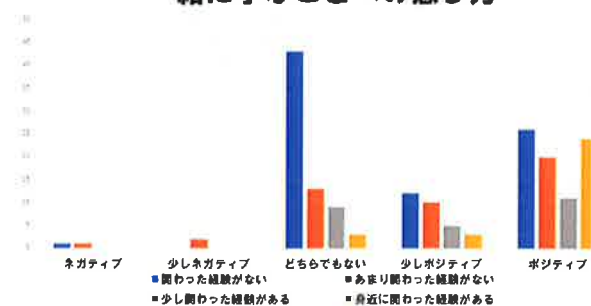
文学部3年次: 鉦 千波さん

文学部3年次: 中村 匡作さん、山根 凜さん

学生対象アンケートは2023年7月18日から8月8日まで実施し、回答者数は188名でした。様々なマイノリティに当てはまる回答者割合や、一緒に学ぶことへの感じ方(全体的にポジティブ、関わった経験があるほどポジティブ)が報告されました。

またムスリムフレンドリーな大学を目指す学生からは、食事や施設で対応・導入の検討が提案されました。

【D & I に関する学生対象アンケート結果 発表内容】

発達障害者と関わった経験
一緒に学ぶことへの感じ方性的マイノリティ者と関わった経験
一緒に学ぶことへの感じ方

アンケートの結果は前ページのグラフの通りです。

個別の回答分布はグラフの通りですが、発達症状と関わった経験と一緒に学ぶことへの感じ方についてクロス集計を行いました。その結果、全体的にはネガティブに捉える人よりも、少しポジティブに捉える人が多かったです。また身近に関わった経験がある人の多くは、どちらでもない～ポジティブと捉えており、ネガティブに捉えている人が少ない傾向がありました。関わった経験がないという人は少なかったです。この結果から、発達障がい者と一緒に学ぶことに対して、ネガティブに捉えている人が一定数存在し、D&Iを進めていく上で、工夫が必要だと考えました。

続いて、性的マイノリティ者と関わった経験と一緒に学ぶことへの感じ方についてクロス集計を行いました。この結果、全体的にネガティブに捉えている人が少ないことが特徴的でした。特に、少し関わった経験がある人と身近に関わった経験がある人で、ネガティブに捉えている人はいませんでした。また、関わった経験がない人が多いということも言えます。その結果から、現時点で性的マイノリティ者と関わった経験がない人が多いので、これから問題が発生した時にその都度対処する必要があると考えました。

これらのアンケートの結果から、発達障がい者や性的マイノリティ者と一緒に学ぶことに対しては、比較的ポジティブに捉えている人が多いことが分かったので、本学においてD&Iが推進されることを期待したいです。



発表者の鉦 千波さん(中央)

【ムスリムフレンドリーな大学を目指す 発表内容】

ムスリム留学生を迎える際の問題点

近年、日本にやってくるムスリム留学生は増加傾向にある

- ・甲南大学にも過去ムスリム留学生の在籍例有り
- ・日本在住のムスリムが入学してくる可能性も考慮すべき

しかし

- ・大学内の食堂や購買でハラルフードが提供されておらず、教職に則った食事ができない
→ 安心して食事を摂れない
- ・礼拝を行うことができる場所がない
→ 礼拝が満足にできない

このような問題を解決するための施策が必要不可欠

ムスリム留学生のための施策事例

① 学食や購買でのハラルフード導入 (画像は宮崎大学)

② 学内における祈禱室の設置 (関西学院大学)

ハラルフードを大学生協で提供している食堂は、全国で27大学 (2021年現在)

3 -2. ムーンデイズ・プロジェクト(生理用品の無償配布プロジェクト)

文学部2年次 阿部 柚希さん、山下 美和さん
 理工学部2年次 細田 福音さん
 法学部2年次 吉井 遇瑠さん
 理工学部3年次 塩田 一貴さん
 経済学部3年次 仲 美奏さん

以上、発表者。

マネジメント創造学部4年次 岡本 絢美さん、若林 真那さん
 フロンティアサイエンス学部3年次 松阪 依美里さん、住野 永遠さん

本プロジェクトの発端は、プロジェクトメンバーでもありますマネジメント創造学部4年次：岡本 絢美さんらが「生理用品を何とかして無償で配布できないでしょうか」と提案があり、今回実現したまさに学生の声から始まったプロジェクトと言えます。実現に際しては大阪大学の配布事例を伺うなど、ご支援を賜りました。

生理用品無償配布は試験的に開始しました(当初2月14日までの設置としておりましたが、当面の間、延長して設置しています)。学生が作成したポスター、満足度の高さと改善案が示されたアンケート結果に加え、プロジェクトに参加した学生たちの気付き(男性学生「男女問わず参加できてよかった」など)が報告されました。

【ムーンデイズ・プロジェクトチーム 発表内容】

1

私たちは、今日発表する6人を含む10人のグループで、2023年12月から、Moon Days Projectという生理用品の無償配布を目指すプロジェクトを進めてきました。これは女性の社会的地位向上を目的として生理用品をトイレに設置する大学や企業の増加を受けて、甲南大学においても無償の生理用品を試験的に設置しようというものです。



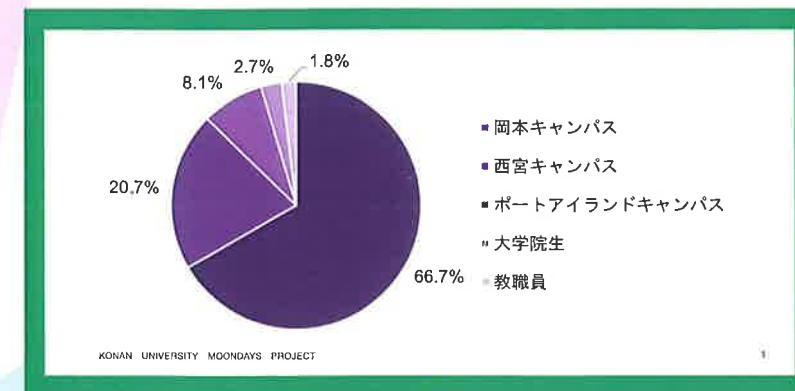
2

Moon Days Projectは、2024年1月15日(月)～2月14日(水)の期間で、岡本キャンパスiCommons 1階、5号館1階、7号館1階、西宮キャンパス2階、ポートアイランドキャンパス7階の各女子トイレに、大阪大学が開発したディスペンサーを設置し、生理用品を入れました。いずれも兵庫県から頂いた補助金で購入しました。ありがとうございました。そして学生への周知を図るためにポスターやPOP、Instagram等、SNSによる広報を行いました。生理用品の補充は大学職員の方を中心に、可能なときはプロジェクトメンバーも行っています。また本来は2月14日で終了する予定でしたが、継続してほしいという声も多くあったため現在もディスペンサーの設置を続けています。



本プロジェクトのニーズを確かめるために、ディスペンサー付近にポスターを掲示してプロジェクトに関するアンケートを取り、2024年1月15日～2月24日で、111件の回答が集まりました。その中でも「回答者の分布」、「プロジェクトの拡大」、「プロジェクトについての意見・要望」について本日はお話しします。

3



回答者の分布です。全体としては岡本キャンパスの回答数が多く、他キャンパスよりも利用者数が多かったと考えられます。

4



5

「生理用品の配布のプロジェクトが今後拡大していくことは良いことだと思いますか」という質問については「全くそう思わない」から「とてもそう思う」の4段階の選択肢から回答していただきました。「まあそう思う」が全体の7.2%、「とてもそう思う」が全体の92.8%と、回答くださった全ての人がプロジェクトの拡大を肯定的に感じていることが分かりました。つまり本プロジェクトは満足度が高く続けていくべきものであり、学生にもニーズが多いと考えられます。



6

次に、利用者の方から実際に寄せられた意見や感想について紹介します。プロジェクトに対する好意的な意見としては、「ちょうど生理になってしまい、ナプキンを持っていなかったのが助かりました。」「マジで便利で感動した!」「こういったプロジェクトが広がることで、生きづらさがあると思うので学内でのこの取り組みに感謝いたします。」といったものが寄せられました。印象的であったのは、「急に生理になったときに便利だ」という声が多かったことです。生理は突然来ることが多く、来た時に必ずしも生理用品を持っているとは限りません。そのようなことが起きた際にこのプロジェクトは効果的であると思います。

7

また他にもプロジェクトへの要望として、「手洗い場に設置されていたので人目が気になって取れませんでした…」「盗難が起きれば本当に必要な人の手に届かなくなってしまう。」「羽なしを使っている人は少ないと思います。羽ありを置いてもらえると嬉しいです。」というものが挙げられました。ディスペンサーの設置場所を個室にしたり、配布するナプキンの種類を変更したりすることで、さらに利用者の満足度は高まるのではないかと考えています。



8

最後に参加学生の気づきについて、一人ずつ、話させていただきます。「私自身、学内で突然生理になって困った経験があります。そのため、学内でこの取り組みが広がることで、大学生活もより過ごしやすくなり、また学生からの要望も伝えられるようになっていないかと思いました。」

「このプロジェクトは女性のためのプロジェクトですが、私は男性として関わらせていただけたことに感謝しています。また、このような性別に関わる色々なことをみんなで考えられる社会にしていきたいと思いました。」

「私も男性として関わらせていただいて、みなさんと会議を進めていく中で、自分でも女性の生理について調べましたが、女性の実際の声聞いて、自分はまだ知らなかったのだと、実感しました。」

「私は、このプロジェクトに参加させていただく時に、きっとこのプロジェクトは役に立つと確信を得ていましたが、実際にアンケートをしたことで、想定以上に必要とされていたプロジェクトなのだと感じました。これからも改善が必要だと思いますが、このまま拡大していくことを願っています。」

「私自身も今回のプロジェクトを通して、女性という自分自身の立場からも、今回のナプキンの配布という重要性がよく分かり、これからも続けていく意義があるものだと、強く確信しました。」

「より多くの女性が甲南大学での生活をより快適に過ごすためにも、このプロジェクトが広まっていければと思います。」



9

3

3. 私のキャンパスライフ

法学部4年次:堀田 零生さん

法学部4年次の堀田 零生さんが全盲についてどのような支援を受けることで学ぶ環境を得ることができ、それにより有益な大学生活を送れた経験を伝えてくれました。対話をする事の大切さが心に響くメッセージでした。

【堀田さん 発表内容】

本学での学びの経験等について、お話しいたします。

最初に私の自己紹介をさせていただきます。私は生まれつき視覚障がい有しており、現在も両目ともに見えておらず、光も感じません。中学校までは地域の学校、高校は通信制に通っていました。高校卒業後2年間は視覚障がい者向けの職業訓練や盲学校で学び、2020年4月に法学部に入学しました。この4月からは、京都の立命館大学のロースクールに進学することが決まっており、順調にいけばではありますが、来年7月に司法試験の受験を予定しています。

次に本学での生活についてお話しいたします。

まず、日常生活や課外活動についてです。通学は基本的に自宅から大学まで一人で通っています。学内での移動も基本的には一人で行っています。本学は昨年、岡本キャンパスに点字ブロックを敷設してくださったため、単独での移動も比較的容易になりました。とは言っても、友人と一緒に行動する時もあるので、そのときは周りに手を借りつつ生活しています。課外活動では、本学の地域連携センターの活動の1つである「えん罪救済プロジェクト」に参加し、司法の世界の実態を学びました。本日司会をされている笹倉先生の下で多くの学生とともに裁判傍聴や検察庁への見学、刑務所や拘置所参観など、さまざまな刑事施設を訪問し、知見を深めました。



発表する堀田さん

次に、学習面についてです。私は法曹、すなわち裁判官・検察官・弁護士になりたいという思いから、法学部への進学を志望し、縁あって甲南大学の法学部に入学しました。本学に全盲の視覚障がい学生が入学したのは、私が史上初めてと聞いています。1年次生のころから法学部の法律科目を中心に履修し、並行して教職課程にも登録し、中高の社会科の教員免許の取得も目指しました。昨年、京都府立盲学校に教育実習でお世話になり、無事取得できそうです。

では、具体的に学習をどのように進めていたのかお話しいたします。先述のように私は全盲ですから、もちろん普通の活字を読むことはできません。ではどのように勉強していたのか。

大学に入学するまでは、もっぱら点字での学習が主でした。そして、大学に入ってから、PCを用いた学習に切り替わりました。PCの画面に表示された文字を音声で読み上げてくれる、スクリーンリーダーと呼ばれるソフトがインストールされたPCを用いて、学習を行っていました。

このスクリーンリーダーは、WordやExcel等のデータを音声で聞くことができます。ですので、大学で授業を受けるときには、授業担当者の先生方に授業より前に配布資料のデータを提供してもらえようお願いし、それを基にして学習を進めていました。例えば、私は笹倉先生の授業とゼミでお世話になっていたのですが、その際には毎回授業前に、配布するレジュメのWordとPDFに加え、講義中に投影するパワーポイントのデータをいただいていた。そのほか、授業で用いるテキストや教科書については、本学のYouステーション、いわゆる学生支援の事務室にお願いし、出版社へデータを提供してもらえないか問い合わせてもらい、提供が受けられない場合にはOCRスキャンなどを用いてテキストデータ化をしてもらっていました。

コロナ禍の影響でオンライン授業が浸透し、紙ベースだけでなく電子データでの資料提供が一般的に検討されるようになりました。そのおかげで先生方にデータ提供の依頼をした際にも、スムーズに提供を受けられるようになりました。コロナ禍以前では依頼しても提供を渋られることが多かった、と他大学の視覚障がい先輩は話していました。実際私も、ほとんどの先生方が資料のデータ提供を始めとする配慮を快諾してくださる中、データは改変等の恐れがあり渡せないかと断られたり、先生側があまりPCに慣れておらず、データ提供が授業よりも大幅に後になる、などということは何度かありました。また、教科書等の書籍のデータについても、データを提供している出版社と、していない出版社があり、提供を受けられない場合にデータを作成するのに時間がかかるなど、学習のための資料収集にはまだまだ課題は多いと感じています。

最後に、今後の課題と包摂に向けたアプローチについて、です。

視覚障がい者が大学で学ぶのに最も大きな課題は、資料集めです。これは学習だけでなく、日常生活を送る中での情報収集という点でも顕在化します。例えば、学内掲示もその例です。本学では、重要な掲示は学生向けのポータルサイトに掲載されたり、教務部前の音声放送で繰り返し放送されるなど、視覚障がい者のためではなくても、視覚障がい者的にも助かる情報提供の方法が実際に用いられています。しかし、これも一部の掲示であり、全てというわけではないのが現状です。

このように、包摂社会の実現に向けては、複数の選択肢の中から、一つの変化で複数の属性の人々がメリットを受けられる方法を、対話を重ねて見つけて行くことが重要だと考えます。例えば、点字資料の提供は視覚障がい者のみがメリットを受けられますが、電子データの提供は視覚障がい者が資料にアクセスしやすくなるだけでなく、オンラインでのやり取りやペーパーレスなど、複数のメリットがあります。このような方法を見つけて行くためには対話を重ねていくことが最も重要であり、そのインセンティブは、誰もがいつ、マジョリティからマイノリティの立場になるかわからないのだというところに求められるべきだと考えています。マジョリティも潜在的なマイノリティであり、誰もが暮らしやすい社会は誰もがメリットを享受できる社会であるはずです。本学がそのような社会のモデルケースとなれることを、願ってやみません。

最後に、本学での学びのため、たくさんの配慮や支援をしてくださった本学の教職員の皆様、Youステーションの皆様、友人や後輩、そして何より笹倉先生に、この場を借りて心から御礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。ご清聴ありがとうございました。



司会の笹倉学長補佐

4

－ 1. 神戸市における女性活躍推進の取り組み

神戸市地域協働局部長、男女共同参画センター所長 三和田 智子 氏

神戸市では、ダイバーシティ&インクルージョンの施策について、様々な部署が、LGBT+Qの対応を含めて取り組んでおりますが、私の所管が男女共同参画、女性活躍の推進ですので、今日はそのお話を中心にさせていただきます。

まず神戸市の組織内における女性活躍の現状についてです。管理職に占める女性職員の割合を令和7年度末に25%にするとの目標を立てております（令和5年4月現在で19.4%）。また、男性職員の育事休業の取得率は、1週間以上取得する職員の割合を令和6年度末に85%にすることを目標にしています（現状60.2%）。

また、全職員に占める女性職員の割合は35.8%。一方、新規採用の職員に占める女性の割合は約半数の50.2%です。職員の平均勤続年数は、男性約20年に対して、女性は約16年。勤続年数の差もあり、男女の賃金の差が発生し、女性が男性の約8割という状況です。賃金は全く一緒ですが、勤続年数の差を平均で捉えると、このような差が出ております。

次に、女性活躍の推進の拠点についてです。湊川神社の西側に神戸市男女共同参画センターという建物がございます。主な取り組みは、女性の悩み、具体的には心の悩みや離婚などの法律相談を始めとする様々な悩みを抱える女性のための相談室です。各種のセミナーや一時保育、会議室の貸出も行っていますが、今特に力を入れておりますのは女性向けのコワーキングスペースです。建物1階に約140㎡のスペースを令和3年9月に整備しました。子どもさん連れにも対応し、無料でご利用いただけます。一時保育、別室での預かりサービスも全て無料で、特に小さなお子様を抱える女性の方に大変ご好評です。

女性活躍推進の取り組み

女性向けコワーキング「あすてっぶコワーキング」

テレワーク、フリーランス、就職活動、資格取得の勉強、育休復帰準備などで利用

利用料無料、一時保育（別室預かり）無料、キッズスペースあり



遊具ブース



女性向けコワーキングスペースについて、もう少しお話ししますと、コワーキングですので、テレワークやフリーランスの方、再就職活動をされる方、育休を利用しての資格取得の学習をされる方や育休からの復帰に備える方に利用されています。一時保育サービスを受けながら、お母さん方は集中して仕事や勉強に取り組んで頂ける環境を整えています。なお無料の一時保育サービスは非常に好評で、予約も取りづらい状況となっています。この内容は学生さんにもポスター作成で協力して頂き、周知しています。一時保育は当初は週1日のみでしたが、週5日に増やした結果、利用者は着実に増えています（令和3年度は1日5人の利用が、令和5年度は18人）。喜んでいただいている声も増えており、利用者の増加状況を踏まえ、令和6年の8月に、学園都市駅から徒歩1分のユニバープラザという建物の中に、同様の機能をもつコワーキングスペースを整備する予定です。

さらにもう1点、ご説明したい制度が、女性活躍推進企業（ミモザ企業）を認定する神戸市の制度です。これは兵庫県との共同事業ですが、現在市内で64企業を認定しています。